

徒もおり、また、HR担任の丁寧なコメントで生徒と話す機会が今まで以上に増えたようだった。

⑤進学ガイダンス

- 実施日 平成2年10月9日(火)
- 対象 1年生進学希望者
- 講師 進学主任及び各教科主任
- 内容 大学や学部・学科についての基本的な知識や志望達成のための学習の仕方についてガイダンスをした。

⑥進路調査による個別指導

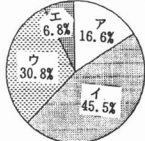
毎月初めに行う進路調査によって、常に進路に対する意識の持続と高揚を図った。生徒の希望の揺れに対して随時個別指導を実施し、確認し、適切な指導・援助をした。

5. 生徒の進路意識の変容と考察

◆将来自分がつきたい職業について考えていますか。

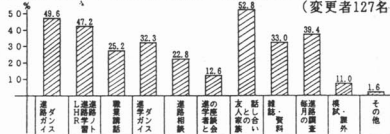
	考えている	少し考えている	気になっているが、まだ考えていない	全然考えていない
一次調査(6月)	37.2%	26.0%	32.7%	4.1%
二次調査(12月)	39.1%	30.9%	26.4%	3.6%

◆今年の6月と比較して、進路に対する考え方が変わりましたか。(12月時点)



- ア. 将来の進路に対して真剣に考えるようになった。
- イ. 将来の進路に対して少しずつ考えるようになった。
- ウ. 以前と少しも変わらない。
- エ. 全く何も考えていない。

◆将来の進路に対して考えるようになった動機は何ですか。(複数解答可) (変更者127名のみ解答)



【考察】

将来の職業について、何らかの形で考え出した生徒が6割から7割に増え、進路に対する考え方も6割以上の生徒が「変わった」と答えていた。その動機の一つに「友人や家族との話し合い」をあげた生徒が半数もおり、将来にかかわる進路選択などは友人や家族といった身近な関係の中で方向づけられることが多いようであった。しかし、進路ガイダンスやLHRでの進路学習、毎月行う進路調査なども進路意識の変容をもたらす重要な動機づけの一つになっているようであった。

6. まとめ

本研究は、1学年を対象としており、期間が半年という中で、生徒の進路意識への動機づけになったようであるが、その変容については中・長期的に観察していかなければならない。今回の研究実践を通して、特に学年付き進路指導部スタッフが積極的な連携のパイプ役となり、学年や生徒への働きかけを推進できたことは大きな成果であった。これらの計画的・継続的にこのような方策を講じていくことによって、生徒一人一人に望ましい進路目標が設定され、自らその達成に向けての取り組みが具体化され、学習意欲が喚起され、3年次にはその効果が期待できるものと考えられる。